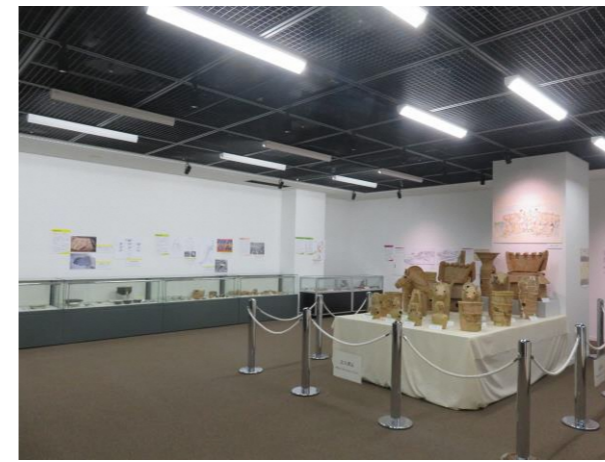
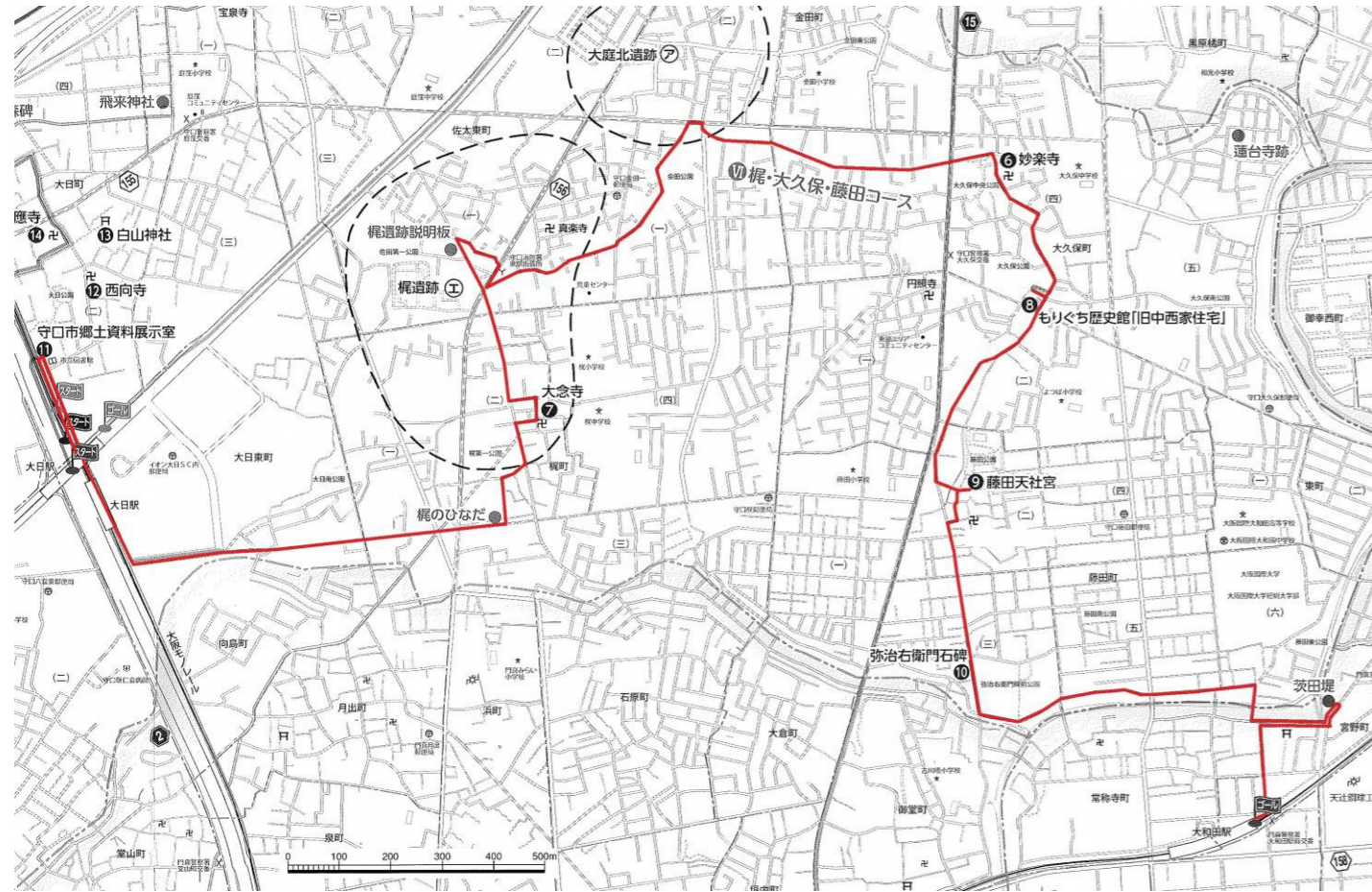


もりぐち ぶらり歩き マップ

史跡散策コースVI (健脚)

梶・大久保・藤田コース



きょうどしりょうてんじしつ
⑪守口市郷土資料展示室



かじ
○梶のひなだ



だいねんじ
⑦大念寺



かじ ごうぶんせきひ
○梶2号墳石碑



みょうらくじ
⑥妙楽寺



れきしかん
⑧もりぐち歴史館



とうだてんしゃぐう
⑨藤田天社宮



やじえもん こうえん
⑩弥治右衛門公園 (石碑)

大阪メロ・大阪モレール大日駅 - (180m) - ⑪守口市郷土資料展示室 (守口市立図書館内) - (1100m) - 梶のひなだ - (300m) - ⑦大念寺 - (420m) - 梶遺跡・梶古墳群 (石碑・説明板) - (1330m) - ⑥妙楽寺 - (300m) - ⑧もりぐち歴史館「旧中西家住宅」 - (550m) - ⑨藤田天社宮 - (350m) - ⑩弥治右衛門石碑 - (800m) - 茨田堤(門真市) - (220m) - 堤根神社(門真市) - (140m) - 京阪電車大和田駅 (全 5,690m) (全 5,690m)

史跡散策コースVI (健脚)

梶・大久保・藤田コース

大阪メトロ・大阪モノレール大日駅 - (180m) - ⑪守口市郷土資料展示室 (守口市立図書館内) - (1100m) - 梶のひなだ - (300m) - ⑦大念寺 - (420m) - 梶遺跡・梶古墳群 (石碑・説明板) - (1330m) - ⑥妙楽寺 - (300m) - ⑧もりぐち歴史館「旧中西家住宅」 - (550m) - ⑨藤田天社宮 - (350m) - ⑩弥治右衛門石碑 - (800m) - 茨田堤(門真市) - (220m) - 堤根神社(門真市) - (140m) - 京阪電車大和田駅 (全 5,690m)

⑪守口市郷土資料展示室

大日の守口市立図書館1階に、守口市郷土資料展示室をあらたに開設した。郷土資料展示室では、様々な実物資料や写真パネルを使って、守口市の地形・地質や、原始時代から近世・近代までの守口の歴史をたどれるよう展示をしている。



郷土資料展示室

○梶のひなだ

梶二丁目の水路に面して、今も「ひなだ」が残っており、その道路側には、狭いながらもひなだ園地が設けられている。「ひなだ」は要するに水路に面した洗い場であり、水路に下りる石段がお雛様を祀る雛壇に似ることから、「ひなだん」がなまって「ひなだ」になったとされている。



梶のひなだ

⑦大念寺

延宝2年(1674)の創建と伝えられ、元は大念仏宗来迎寺末でしたが、明治5年(1872)に浄土宗となりました。当寺にある石造地藏菩薩立像は享禄5年(1532)の和泉砂岩製で本市の貴重な石造美術品といえます。絹本著色阿弥陀三尊来迎図は室町時代初期頃のものとしてされています。



石造地藏菩薩立像

○梶遺跡

古墳時代から中世に至る複合遺跡で、3基の古墳をはじめ、土坑墓や溝などが発見されています。このうち梶2号墳は、6世紀初頭のもと考えられる全長約37mの帆立貝式前方後円墳で、周溝内から、円筒埴輪・朝顔形埴輪のほか、国内で2例目の出土となった珍しい牛形埴輪をはじめ、人物・鹿・猪・馬・家などの形象埴輪が多数出土しました。また埴輪とともに「首輪をした犬」の装飾付須恵器壺なども出土しており、これらは平成10年に市の有形文化財に指定しました。



市営住宅敷地内の梶遺跡説明板

⑥妙楽寺

延宝年間(1673~81)の洪水で本堂や庫裏を流失しましたが、天和年間(1681~84)浄土宗融通派の僧一空知三唱阿上人が再建しました。もとは天台宗であったので妙楽の号を称したと伝えられています。境内には、樹齢約300年、樹高約3.5m、幹回りは20~40cm前後、枝張東西約4.8m南北約7mの「オオムラサキ」、俗称「ヒラドツツジ」があり、昭和58年に大阪府の天然記念物に指定されました。



妙楽寺のツツジ

⑨藤田天社宮

由来書きによると、藤田天社宮は平安時代の土御門神道の主神泰山府君を主神とし、深沙大将・陰陽道の祖安倍晴明も祀っています。かつて藤田の地には主神泰山府君の本地垂迹神、深沙大将を祀った祠がありましたが、明治の神仏分離で祀られなくなりました。現在の祠は、地元住民によって昭和24年に再建されたものです。



藤田天社宮

⑧もりぐち歴史館「旧中西家住宅」

中西家は江戸時代初期に尾張徳川家と姻戚関係を持ったことから、後に代々尾張藩大坂天満蔵屋敷奉行などの要職に就いてきた名家です。現在の主屋は寛政5年(1793)に建立されており、府下に残る建物としては比較的新しいものですが、棟札及び銘文に記された旧建物規模からみて、弘治元年(1555)の創建以降大差のない規模・構成を踏襲してきたことがうかがえます。また大門も棟札及び銘文より、安永5年(1776)に再建されたことが知られ、屋敷地を濠で囲んでいたこととあいまって、中世土豪をしのばせる貴重な建造物です。平成10年に市有形文化財に指定し、修復・保存工事を行い、現在はもりぐち歴史館「旧中西家住宅」として公開しています。



旧中西家住宅 主屋

⑩弥治右衛門石碑

大久保地区一帯は低地で、特に藤田村は水はけが悪く、稲の水腐れ被害が毎年のおこっていました。慶安元年(1648)藤田村の庄屋小泉弥治右衛門は、村民の被害を取り除こうと、幕府の許可なしに排水樋を造ったとされています。このため幕府を無視したとして、翌年3月22日に弥治右衛門一家は処刑され、家財・田畑も没収になりました。村民たちは村のために犠牲になった弥治右衛門を後世に伝えるべく、俗名を刻んだ道標をつくり墓碑がわりとしました。また昭和7年(1932)には記念碑も建立されました。



弥治右衛門石碑